

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

3/Color Black

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Centimetres



13
3053

山東庵京山譯 文政丑春
稗史水滸傳初編
歌川國芳画 上卷

寛政壬子の春京傳并繪本水滸傳或再
譯して大いせに行る故今日編成補ハ画作筆
或異よしく新編と云ふは主ハ版諸異一覽或
下して再評或賜ハ幸甚と 儂鶴堂 欽白

勾曲外史題水滸傳云云是晨在夕
林廉水之濱一卷讀之不覺欲竟全部
後全部一既再讀不須去手 本轉在
說部者於其書亦於故譯之盡之欲
為新卷者梓之冊書坊來乞之編一
辭再乞不入辭 則作六編著全傳之班
全豹有初有後快云尔

文政子之星夕 京山人識





一季打得
眼瞎
縫裂烏
珠迸出也
似牙
筒綵帛



歌奴
金翠蓮

西關鎮

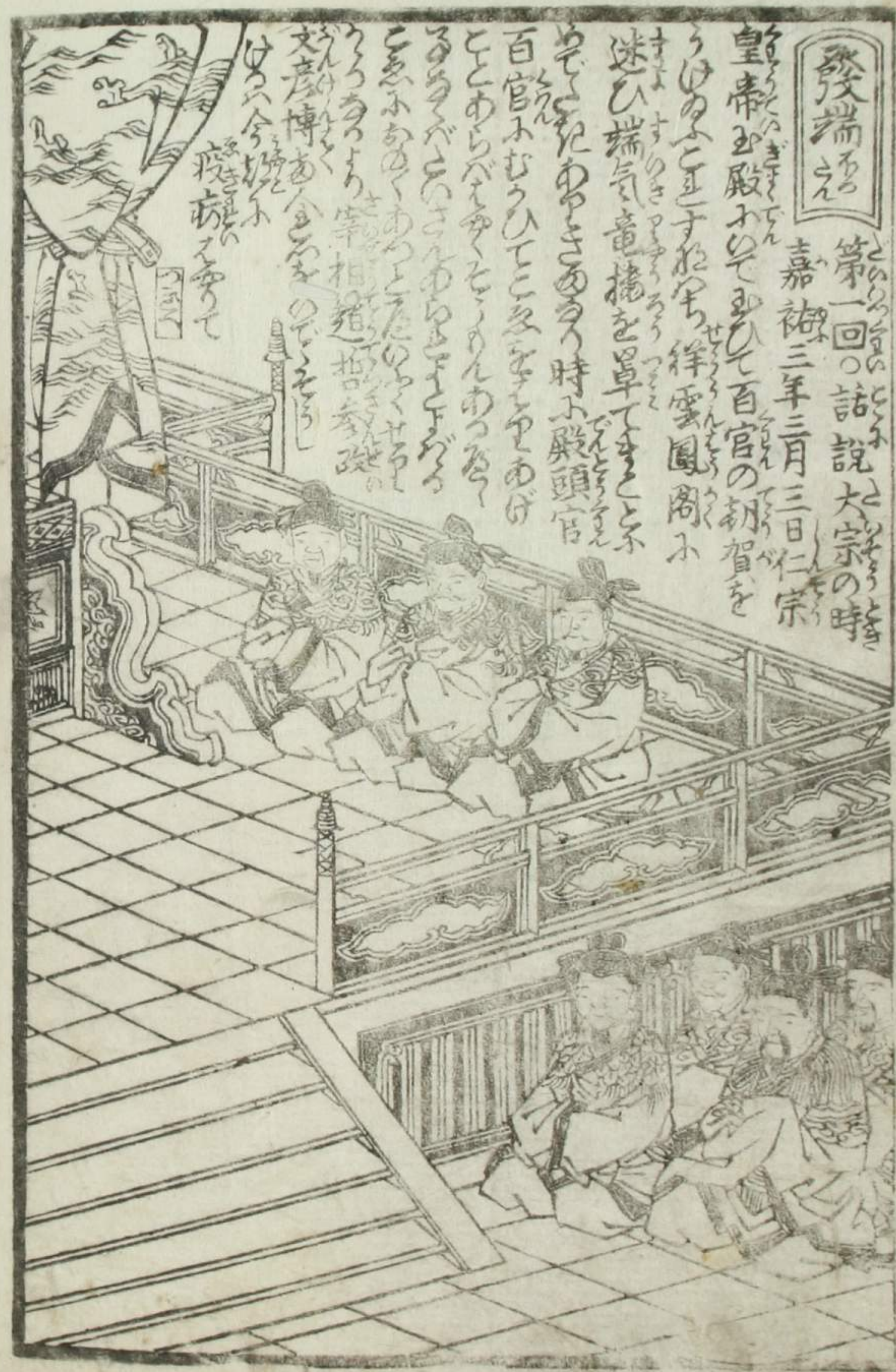
舖紅的
黑的縫
的都
滾將
出來



三洞
仙涼

魯提轄
後為僧
魯智深







草と
 びびり
 とどて
 本のを
 志して
 のんで
 浪を
 るま
 けぬ
 ぬら
 けん
 せし
 及人

洪信
 山を
 水を
 此山



神童
 官人
 半里

十
 山
 水
 此山

史 稗 山東庵京山譯
水滸傳
初編 下卷
歙川國芳画

田舎堂





此の書は...
 ...
 ...

此の時...
 ...
 ...

...
 ...

高休

王進



おつちのうらなひをさすひなをさす
 おつちのうらなひをさすひなをさす
 おつちのうらなひをさすひなをさす

馬のなほいふをさす馬の
 馬のなほいふをさす馬の
 馬のなほいふをさす馬の
 馬のなほいふをさす馬の



王進
 母
 馬のなほいふをさす馬の
 馬のなほいふをさす馬の
 馬のなほいふをさす馬の
 馬のなほいふをさす馬の

かの茶はすやてのひひのひ
 あひのうまうまうまのひひのひ
 振ふるふるふるふるふるふるふる
 ままのふるふるふるふるふるふる
 すていすていすていすていすてい
 くるくるくるくるくるくるくる
 ままのふるふるふるふるふるふる
 むまのふるふるふるふるふるふる
 むまのふるふるふるふるふるふる
 ちうちうちうちうちうちうち
 ごとこのふるふるふるふるふるふる
 おころふるふるふるふるふるふる
 ままのふるふるふるふるふるふる
 ひひのふるふるふるふるふるふる
 むまのふるふるふるふるふるふる
 とよのふるふるふるふるふるふる
 おまのふるふるふるふるふるふる
 つけてふるふるふるふるふるふる



④ ちうちうちうちうちうちうち
 ひひのふるふるふるふるふるふる
 むまのふるふるふるふるふるふる
 とよのふるふるふるふるふるふる
 おまのふるふるふるふるふるふる

三年



⑤ ちうちうちうちうちうちうち
 ひひのふるふるふるふるふるふる
 むまのふるふるふるふるふるふる
 とよのふるふるふるふるふるふる
 おまのふるふるふるふるふるふる

三年

武蔵の山伏として
 己の心のけしきをかき
 くのぼりて
 のぼりて
 けしきの
 入ると
 志きや
 志あひ
 をこのま
 けれど
 王進
 さし
 わのりて
 おんを



九紋竜

王進は是のくほよくかてんのあはしのてき
 いかうやとあわらうふあはりのけが
 させぬふろりとうけき
 ①

すはまきかたやうらまき
 あてけはとてこちむら
 霧の内そのごもあかと
 ましてまなちりて
 けんめつす九紋竜
 ④すはまきかた
 ろるるはきうら
 ちかふそのころを
 ちらびるトスかけ
 うちこむを
 ひらりとを
 己きの志えなるか
 はしゆれキートス
 かわけきむらう
 ナらふよをねあや
 ちやいおふどうと
 こあれけや王進
 けはすてこまけ
 わるるがうちの
 するか ⑤

は 許也



つぎ
 九紋竜と



③うける人のせられ
 まけるもりきあはるる
 けきとも九紋竜
 王進ハせんか
 王進

川

十一



史太郎

王進

半年どりの
あて十八のり
乃成ひのこくまあ
けつ王進の

手記巻のふ
はまふ
あかん
まきの
どろ
きり



九紋竜

この日
あつて
九紋竜もまきまの
ま進これゆ

まらばまらば
かどぞのまらば
りうけあつそこの日ハ

九紋竜
まらばまらば
かどぞのまらば
りうけあつそこの日ハ

ま進
あつて
九紋竜もまきまの
ま進これゆ

山東庵京山譯

歌川國芳画



二十里
 心をのぞき
 松のうらやまの
 さうひひを
 ことねのさうぎ
 をあらしし西と
 ひがしをもち
 さりけりこの
 のち九紋竜が
 身の
 小

九紋竜

王進

王進が母

御免江戸曆開板所 毎年十月下旬頃より愛初めやい
 載陽帖全一冊 南山禪師書 四摺和文章 石摺

新撰 日本名所之繪 唐紙摺一枚 蕙齋鉞形結真筆

新撰 女古状揃園生竹 大木 西品 出来 高井蘭山編撰

新撰 還塊紙料 柳亭種彦隨筆 古画八二冊

田喜巻輯 昔のむとめ

隨筆 女同放言 初編二編共二巻 妻山抄 第三編三巻 近刻
 右身三編三冊 巻別 初編の初巻は編まなく百篇 初巻は編まなく百篇 初巻は編まなく百篇
 切編編よのやまのりとも

三畝菴本木校輯
芳州集 全冊 開 國八州のわが朝傳史甲斐守の古きを
 同 板 収めたるものなり
林取蘭集 全冊 追 本邦の蘭書を収めたるものなり
 刻 於合二百卷あり

歡童 **遊言画手本** 一名 **鳥羽繪早** 及び **果**
 廣益 **懷中早割大全** 小本 あり 初巻より
 雙動記 二冊 あり 初巻より

芝居 **似藤早稽古** 後編 全冊 五渡真園貞画
 役者 **似藤早稽古** 後編 全冊 五渡真園貞画
 文吉 **自笑評** 全冊 あり 初巻より

即考 **百籤** 全冊 あり 初巻より
 藝品定 **役者評判記** 全冊 あり 初巻より
 當五 **月** あり 初巻より

修紫田舎源氏 全冊 柳亭種彦作
 歌川國貞画

喜怨哀樂堪忍裏 全冊 蘭
 傳 **靈應丹** 全冊 あり 初巻より

鎌倉山百人一首 全冊 あり 初巻より
 大 **吉廓薰名寄生梅川** 全冊 あり 初巻より

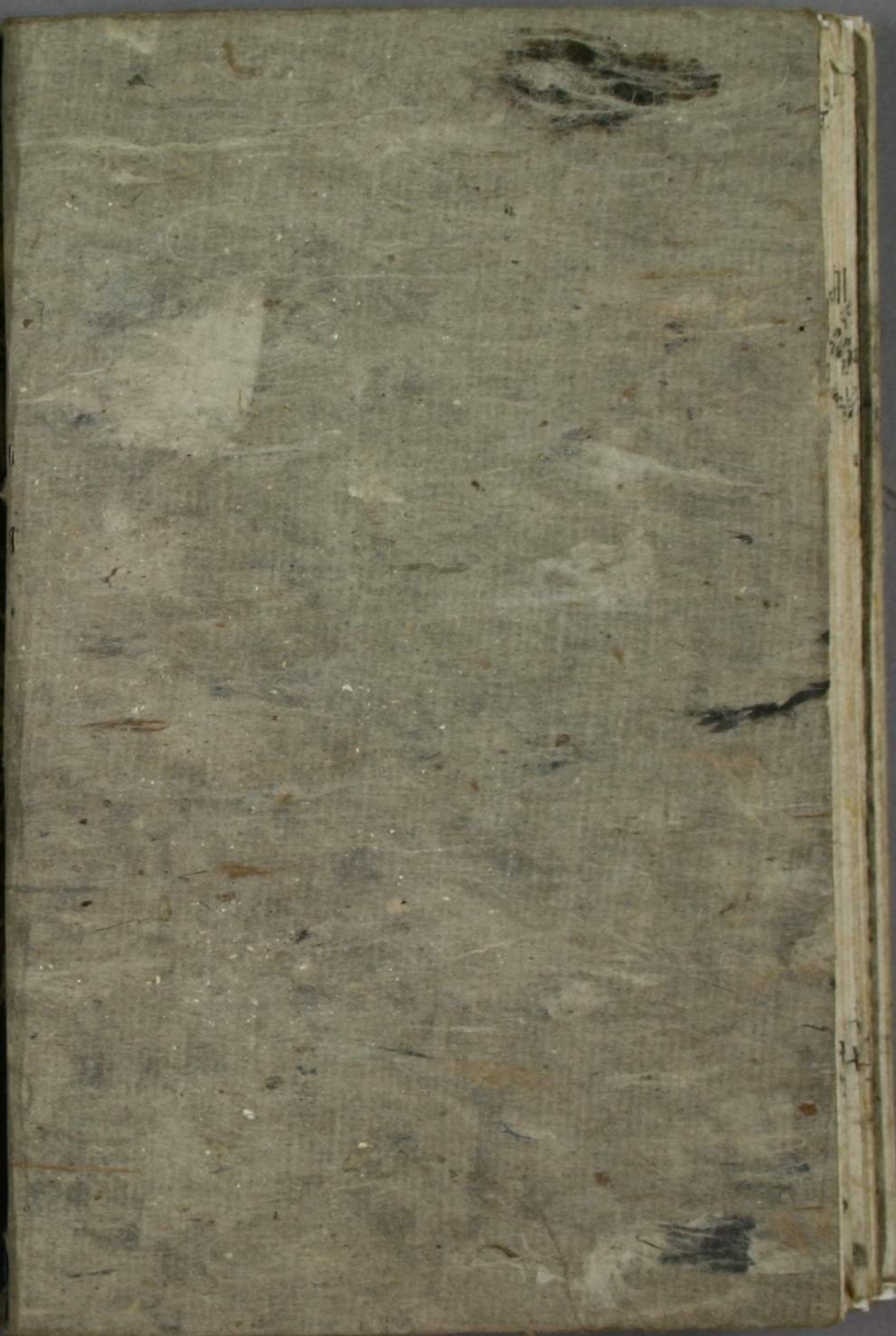
三國快談 全冊 あり 初巻より
 江戸 **名所東鑑** 全冊 あり 初巻より

美艶社女香 全冊 あり 初巻より
 黒油 **美衣香** 全冊 あり 初巻より



通治
 右五冊共
 上五冊共

稗史山東庵京山譯
史記二編
水記傳記
上卷
歌川國芳画





かしらとありどもおぼえのこふ
 わゆひりかきうすはうかひひきり
 きさうりんアキウウチ多きほくいなき
 そよよこのものゆびらんぢはねく
 えものゆりちまきうてこまふ
 うまていこのころそく
 いかまきかやうどもかめね
 きの手せぬありののと
 りてかまきき一足も
 とまう手せぬ
 「らんちをうぬいする
 のの大なる花山はれ
 えののちたいかきね
 せふあやむありて
 うまていこのころそく
 さかろあやめすも
 こころのありまうが
 花山の山ぢちこころ
 はせんとあたとおぼえのこふ ①



③ ちくぢり
 ゆの山おこ人の山ぢち
 ゆまこのもやゆ
 ちくぢりて山お
 こころかみまて
 らめ仲まのものども
 のの山おこ
 ちくぢりて山お
 ちくぢり
 ちくぢり
 ちくぢり



かしら
 おぼえのこふ
 あまろくさき
 のころにゆび
 今さらけの山ぢちの
 さまてい酒のま



九紋竜

① 九紋竜
 おんせけまが
 かろ
 舞臺とちんちん
 のまのまはひまの
 馬はせどろの
 きんせんやまの
 おんせけまが

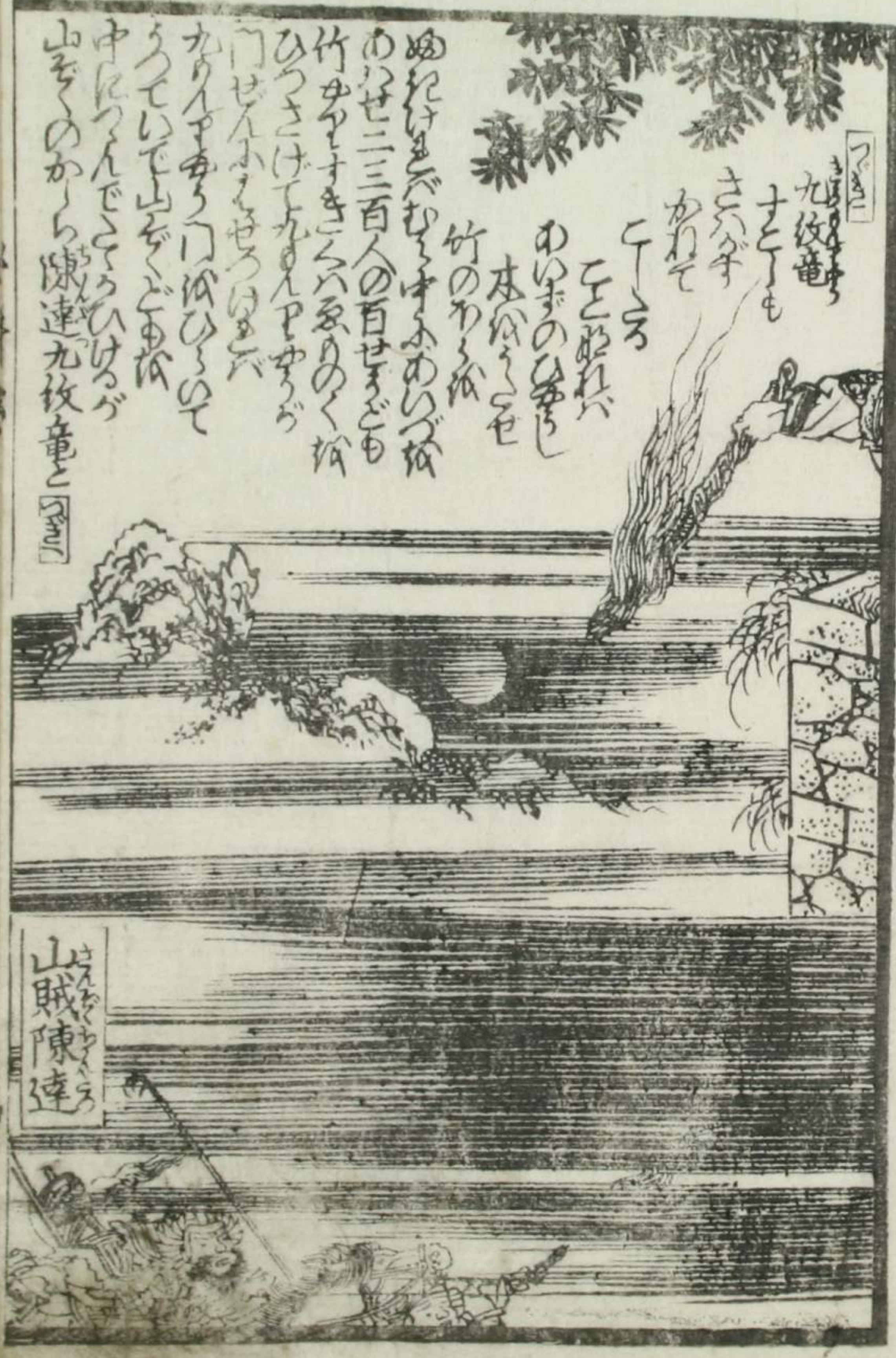
つぎ 神機軍師赤武と
 中身二匹舞虎陳達と
 揚春と平八はこれの
 わらわおんひ
 がらうのさす
 とのこはひん
 のるまのひ
 こそこのひやまきうの
 ゆびのこのせうたふて
 かけらの中花山はさう
 山賊のこの村まき
 官府のまきまき
 のらめそのまき
 どのまきまき
 ちふりて



水戸傳



九紋竜史進



九紋竜
すくも
さかす
かねて
こころ
わいすのひき
本心
竹のわら
ゆけい
のせ二三百人の百せ
竹中
ひつさ
門せん
かりん
うていで
中
山

山賊陳達

陳達



④ ぶげうせき
かどもあぶ
嶺松山のそり
とろて入の
から陳達が
おろまを

⑤ ぶげうせき
かどもあぶ
嶺松山のそり
とろて入の
から陳達が
おろまを



① ぶげうせき
かどもあぶ
嶺松山のそり
とろて入の
から陳達が
おろまを

九紋竜

② ぶげうせき
かどもあぶ
嶺松山のそり
とろて入の
から陳達が
おろまを

③ ぶげうせき
かどもあぶ
嶺松山のそり
とろて入の
から陳達が
おろまを

つぎまゝのうやけは三人のから
 大小おろき九紋龍史進かして
 極勇の口よりあやとあやとあやと
 ちやんたきんおあつてさやとねぐさ
 陸運松をとほしちのあやとあやと
 いふせんといひはまゝ三の
 から楊春いひける
 このまゝおれくあ
 もや松のことだ
 去てて
 山賊
 ぞぞ



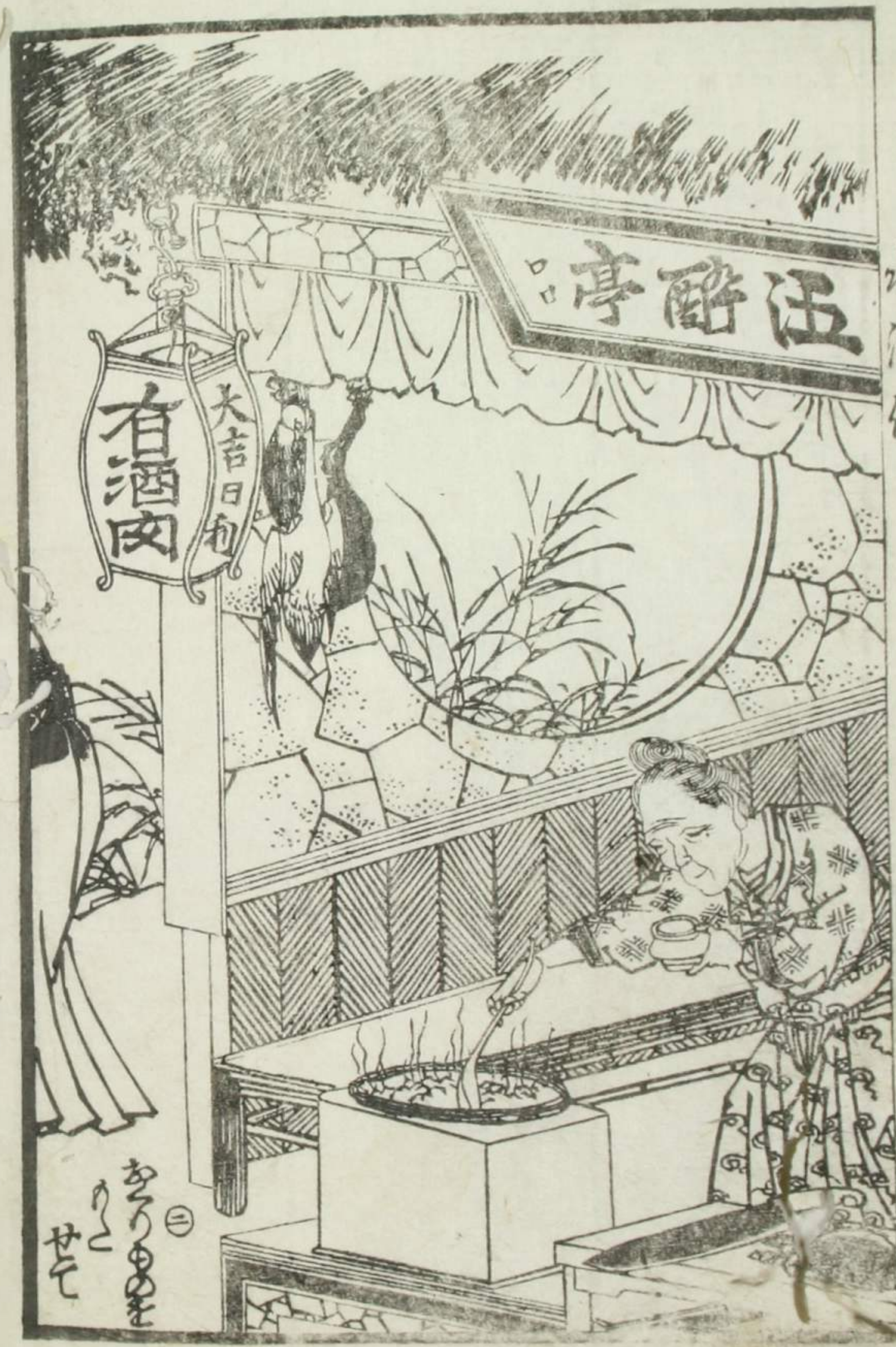
山賊朱武

山賊楊春

史進の
 とりかき陳達を
 ちよとておれをまゝ
 いひはれおす一の
 から朱武や
 ちよぬのいやく
 そねのあつて
 智あつておれ
 ちよのこあや
 かやうおせの
 陳達をまゝと
 ちよおろせま
 ちよけま楊春
 ちよあやまとい
 あよこのちよ
 ちよまゝか
 とあつておれを



史進の
 九紋龍
 たる陳達を
 松のちよ
 ちよあつて人
 まゝか
 ちよまゝか
 かりを



水滸傳

山崎 仁 勢

つぎそのゆきよとに
こもましけりうがせん
ごもあふんこういひき
これの水をど
松れ風秋の
夜もあも
ゆけ色きそ
まのこく
するまのり
形りこのとに
きうもんやまうが
糸のうに大おろぎらひ
ゆきまてふたふん
あるこの夏のこと史進が
とあふぬすとのうらま
たるかのあまとのありの
山のかさやけあふ
とさうらうやま四が
かるまふかふて
たれこふ

楊春 勢

史進 勢

朱武 勢

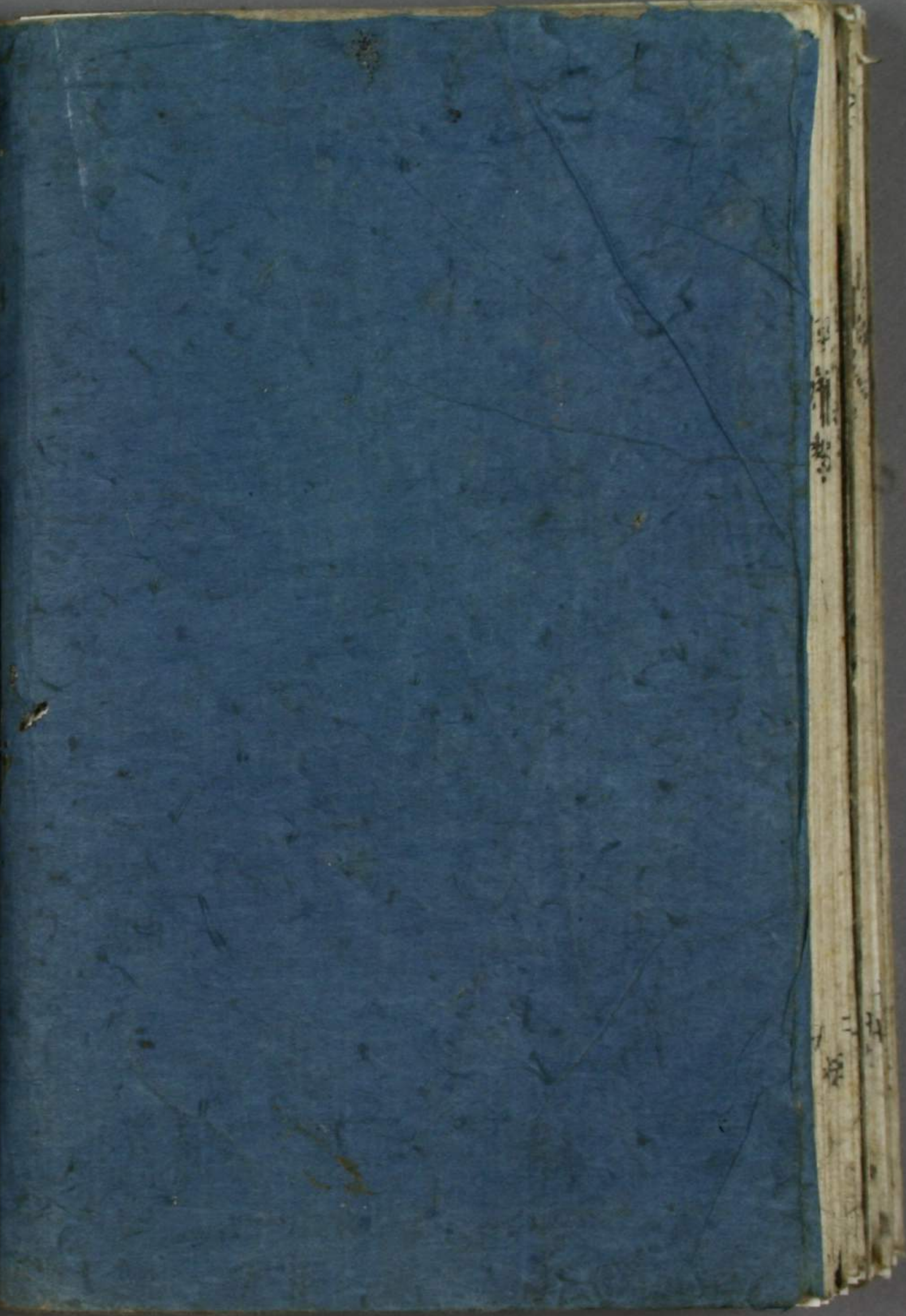
陳達 勢



史
水滸傳
下卷
編

山東庵京山譯

歌川國芳画



山東庵京山譯 文政丑春

稗史 水滸傳二編

歌川國芳画 下卷



日じろやわがも人も酒ふ
 るひてんこのまゝなれや
 このつもゆの三仲まゝの
 見すてもあられまひてな
 とつてひたあつてコレ玉四どの
 と八山のちろつてもおた
 めつとあつてゆりつて
 ややあつて一はせ
 ども玉四八死人の
 ころり遊りはとた
 玉四がくびに
 うけらるさかみ
 ぬらちとまに
 さがりのころ夜
 李老月うひふ
 十はアアて
 たちちちちち
 あんきんこ
 玉四狐もとの
 ごとくわう



つぎおきこのふゆさう
刃にたきのせん
ゆきかきあて
ゆきのこらまひ
のこがれと
つこのあよ
うんと何
ささりたり
ゆきかきあて
あまほくまのあまを
ゆきかきあて
てんあまの
大なるに
てはてかの
手をかき
刃のに
かきあて
ことねま
文字はうとく

つぎおきこのふゆさう
刃にたきのせん
ゆきかきあて
ゆきのこらまひ
のこがれと
つこのあよ
うんと何
ささりたり
ゆきかきあて
あまほくまのあまを
ゆきかきあて
てんあまの
大なるに
てはてかの
手をかき
刃のに
かきあて
ことねま
文字はうとく

史進



かきあて
けしん王四ハ
秋の夜風に
ゆきかきあて
ゆきかきあて
酒中
大に
とた
十二

王四

つぎに心算も込入れしとて
 又ねがふれもなきがも
 ちびまはつちをさうた
 かりけりのひらりこと
 のひらりねがまのまき
 るまもがまのこし
 ちまらりおりとれま
 こころなせおをき
 ののねんらねたとも
 のれもかまの
 山ごちどのの
 客まのや
 どん海のあて名
 わまはまのま
 巾りのあると
 おりどもめつて
 おとつらや
 さくらにあら
 平まきとせん
 かこねと



史進

身はかこして
 せせぬなり
 こにまこ
 九りんやま
 玉四があまの
 あそたは
 いまこ
 いまこ
 中ら
 とり大
 のも
 かこ
 ぬいして
 うろ
 まこ
 ろふ
 るま
 こ
 こ
 や



史進



三三三 かくれりてむらさきやまの
 せうごんをすべとかのわらうとの
 李をぬいごうはまが史進なる
 いりあんなぢるあひのせうと
 わりてはとをふい
 けりや 李をかくること
 うちこころひぬる事
 かりうめあんなぢりつをや
 うまのぬのぞれ
 とれごまぬぬす
 せうごんぢうつて
 大ぬす人ぬりこれ
 このことをま
 ぶか
 せんぢうせん
 こちまちむひて
 王四があと
 かね山のまが
 ひろいごま
 せうごん
 のてが



三三三 かくれりてむらさきやまの
 史進とまをまのて
 ちりめてさるのぬ
 ひろいごま
 たうどのふかけのぢり
 こまの王四
 とくごま
 ちりまを
 ちりまを
 かくれりて
 史武のぬ
 史公のぬ
 おんを

中ふの... 白牡丹
 百世... 白牡丹
 男大... 白牡丹
 女... 白牡丹
 男... 白牡丹
 女... 白牡丹
 男... 白牡丹
 女... 白牡丹



金老...
 翠蓮...

本文... 翠蓮...

せ... 虫...
 一... 虫...
 虫... 虫...
 虫... 虫...



魯...

東... その...
 金...
 二...
 五...
 十...

日本書紀

京山譯

初編終

國芳画

後編
源氏
物語
本やとの
由末の
由んてり



金の口は...
せん...
の...
ふて...
十七...
六十...
り...
ゆて...
體達...
後...
あ...
ま...
き...
李...
を...
今...
ま...
と...
め...
め...

小本百人首品

小本昔之伝

同 源氏絵拵

同武者本

同 往来物

同長唄

日蓮上人御代記

入 一 牧摺

馬喰所

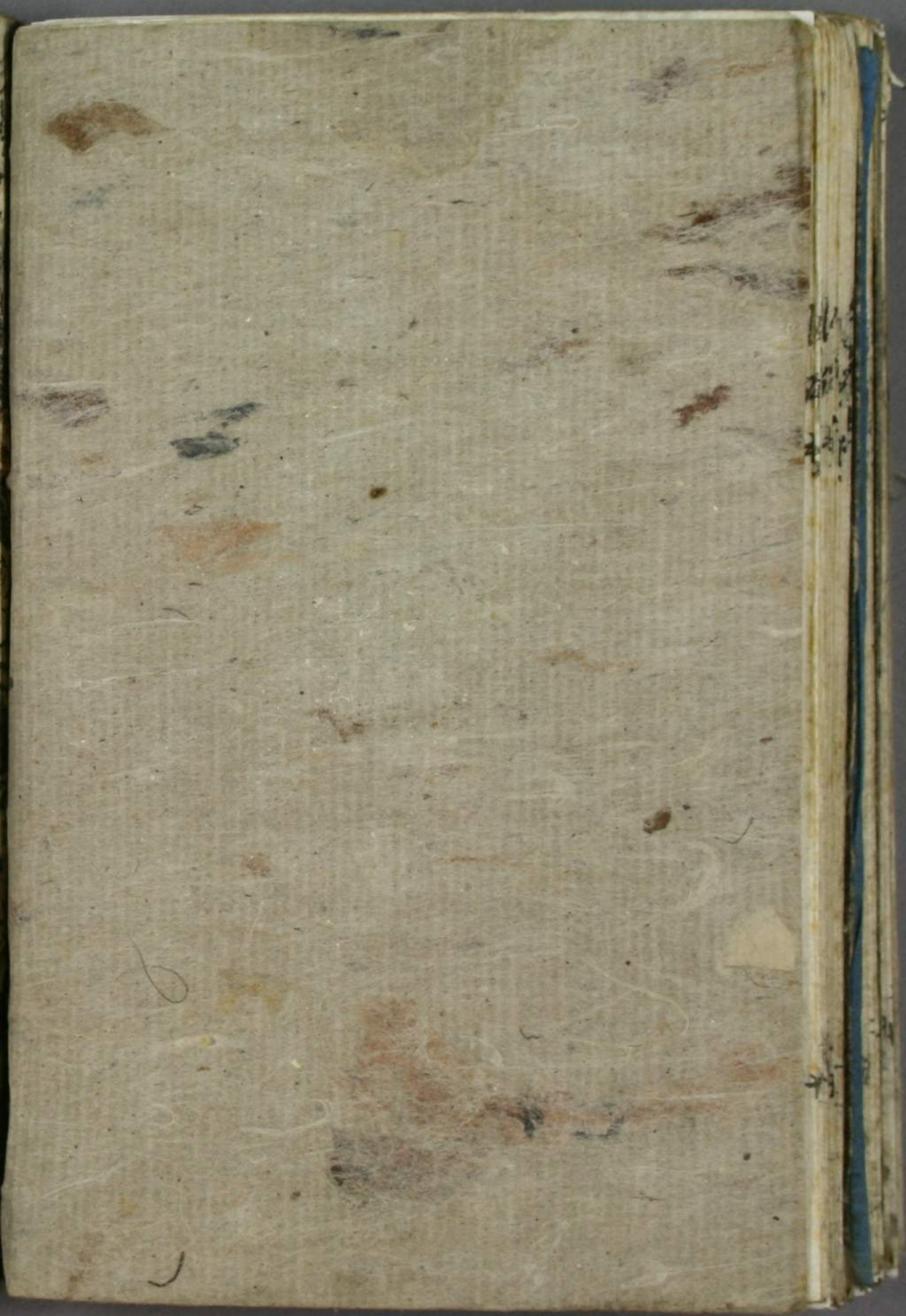
江崎屋吉兵衛

戸 御見附略圖

四丁目

仙...
長...
市...
三...
坂...

稗ま史こ水ん滄傳ん
山東庵京山譯
三編
上卷
歌川國芳画



山東庵京山譯 文政丑春
 稗史水滸傳三編 上卷
 歌川國芳画

稗史水滸傳三編 上卷
 歌川國芳画
 稗史水滸傳三編 上卷
 歌川國芳画
 稗史水滸傳三編 上卷
 歌川國芳画

山東庵

於三代亂離間一旦雲開復見
 天草木百年新雨露車書萬至
 曰江山君常巷陰陳旌符幾多樓
 盡奏管絃人樂太平無夕日
 去每限日高眠

右宋人邵堯天作

京山人石樹書

石樹書

水滸傳





下官
薛董
鑿



花和尚
魯智深



白鹿堂

禁軍 十萬
鎗棒教頭
林仲子頭

①
 此の如きもの
 一由なるもの
 けびききす
 のんどうて
 かやまの
 だうか
 にくいの
 さすりの

金老
 たる
 まる
 たる
 まる
 たる
 まる



此の如きもの
 もとの

初
 父に
 おさ
 ささ
 志
 九
 さ
 父
 その
 さ
 う
 こ
 か

金老

つた魯達を海佛とて
 舟に乗りて合光の舟に
 のりてまの舟の舟の
 つけてまの舟の舟の
 舟に乗りて合光の舟に
 のりてまの舟の舟の
 つけてまの舟の舟の
 舟に乗りて合光の舟に
 のりてまの舟の舟の
 つけてまの舟の舟の



魚目達

③ 舟に乗りて合光の舟に
 のりてまの舟の舟の
 つけてまの舟の舟の
 舟に乗りて合光の舟に
 のりてまの舟の舟の
 つけてまの舟の舟の

てん具をものにつまぐらふは
 舟をのりて舟の舟の舟の
 つけてまの舟の舟の
 舟に乗りて合光の舟に
 のりてまの舟の舟の
 つけてまの舟の舟の



金老

金翠蓮

舟をのりて舟の舟の舟の
 つけてまの舟の舟の
 舟に乗りて合光の舟に
 のりてまの舟の舟の
 つけてまの舟の舟の



「さき」已れくそめあかこまをみんぎのらふたて
おやうこふげとけいこのあふかもきしてわ
そのてこのめとぎさやがれが魯達よりかま
二人が身のうのあふかもわねが
ひたけけあねがさ
つでめつこてんか
ううすぐはるすの
あやまらぬひ
けとひひけま
ひちめぬま
ひしがあぬ人
うの口のちやうな
サこのとね年蓮う
も飯とまじるこの
ちあいのり飯
ころのすめ飯つらむ
ごうごうの飯
つこかろこゆへに
うちなまひ目う
からくにはめたり

魯達

「法」西のうか
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ

あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ



せんたりのあはれか
わひにあらむ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ

鎮西

あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ
あつて飯かろ

と年



⑤
 ひろあやの
 分でもあや
 まひと

徳川幕府
 御用金
 御用金
 御用金
 御用金

④
 かのり
 かのり
 かのり
 かのり
 かのり

⑧
 かのり
 かのり
 かのり
 かのり
 かのり



⑥
 かのり
 かのり
 かのり
 かのり
 かのり

⑦
 かのり
 かのり
 かのり
 かのり
 かのり

⑨
 かのり
 かのり
 かのり
 かのり
 かのり

徳川幕府
 御用金
 御用金
 御用金

七

つぎにちんらんせいかち
 な城をてんごまぬき
 城よりあつとてち
 さりなるがらちる
 もとれてさきさるもの
 一人もあつりたり
 のそれのさきあた
 こふまごころの金老
 翠蓮らへらるるに
 手けり色ぬきと
 軒廊にあつんと
 するがらちる
 さらのまごころに
 代別雁門縣とふ
 とさるのち
 権勢外といふ人
 ずいせんをてけ
 ぬけいへつて
 あまごふちるに
 らせせけるが



は人男ぬりも
 ぐくぐくも
 母てたものるれが
 すんせんあまこい
 かのぬきもぬらり
 らじりりまてある目金老
 ちまごころあつ
 こふかはらさるぬきあり
 人あつりぬきまりてとれぬ
 戸る金老もまよりて
 とれぬあつに翠蓮
 法門西谷あつとて
 うけあちぬきてゆきま
 これぬあつてま
 ものあつてま
 らうびぬきま
 るり金老もま
 足てたふあ
 きまてはらるるの目金老に目かけ
 ものふらまつとてぬき



耕書堂藏梓目録

稗史水滸傳 山東京山譯 歌川国芳画 丑新板中本袋入
梅枝物語 六樹園大人著 柿がえの浄福院と和文 出まざる出まておとせ松有古の格撰とある又免虫考
新吉原 じょうのまのつ 毎月改 中本全三冊
細見記 五葉松 中本全三冊
滑稽水滸傳 あどけすのこでん 陽春閣戯作 北屋重政画 丑新板中本三冊
美艶仙 女香百十八洞 ねらふんはぬいせをん 美艶仙のついでに 未だ未だある 黒油美玄木白甲八洞 小兒五再切妙法おたの申奉功徳本奉り徳と徳
富本豊前太夫直傳正本所 江戸小傳馬町三丁目
大字 義太夫抜本問屋 萬屋重三郎版
新六行

風話跡引上戸 十返舎一九作 丑新板全一冊
笑話初子待 同 全一冊
笑話新形漆 同 全二冊
笑話瓢百集 瓢亭百成作 全二冊
教訓先農夜話 周監齋著 全一冊
長唄ゆり 室を替音古本
諸色枕昔古本品々小劇 日蓮太土 靈方 經王七字圓一包



日本手巻にあらはれし
 すんころ金老が
 門せんにあわく
 の人をこきこく
 るまをこきこく
 してとんと官人こき
 上せころ中におもひ
 ありてあこめたり
 るころこれ紙きり
 ころのせりしを
 ひきたこれ紙
 ころ一人の寢
 馬小の
 のまこの
 去るを
 てんこ小捧を
 りこせて金老が
 のをとり手たり

諸貧外証
 翠蓮花
 金老

